

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791000011		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム優希の杜 1階		
所在地	二本松市長命68-1		
自己評価作成日	令和3年6月1日	評価結果市町村受理日	令和3年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①それぞれの職員が協力しやすい体制を整えて、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。
②感染対策を行いながら、外出支援に取り組んでいる。
③過ごしやすい空間を提供できるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員間のコミュニケーションがよく、連携して利用者に寄り添いながら、明るく笑顔をもって接している。また、職員は利用者の思いを把握し、思いに沿った支援を行っている。You tubeで昔の歌番組を見たり、コロナ禍でもできるだけ外出の機会を作る等、様々な調整をしてみている。
2. 町内会に加入し、地域行事(運動会、お祭り等)に利用者に参加したり、事業所の行事には地域から参加があり、積極的に地域との交流に努めていた。現在、コロナ禍で交流が途切れてしまったが、行事等の際には、地域の花やさんからお花を沢山届けてもらい、華やかな雰囲気を醸し出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を唱和している。全職員が理念を念頭に置き、理念の実践を図っている。	理念は4年前にスタッフが意見を出しあい、「家庭的な環境の中で利用者様の暮らしに合わせた生活を支える」に変更している。理念を実践するため毎朝、申送り時に唱和し、職員間で共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域の方々との交流は出来なかったが、ホーム内行事で地元のお店を活用し交流できる機会を図った。	町内会に加入し、区長から招待されて地域のお祭り・運動会等に出かけていた。また、地域の消防団が避難訓練に参加する等、地域の方と交流していたが現在コロナ禍にあり中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他ホーム・地域包括と協力しオレンジカフェを開催、認知症に理解を深めて頂ける機会を設けていたが新型コロナウイルス感染予防の為延期が続いている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為ホーム内での会議は行わず、手紙でのやり取りにて意見を伺っている。頂いた意見をまとめ運営に活用、サービス向上に取り組んでいる。	地域代表・家族代表・地域包括支援センター職員・女性防火クラブ等が委員になり、事業所の運営状況や利用者について理解してもらおうよう取り組んでいる。委員から招待を得て地区の行事に参加していたが、現在コロナ禍にあり中止している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課や福祉課(生活保護)などの方々と連絡を取り合い、連携を図っている。	行政担当者とは、介護保険の認定更新手続き・外部評価結果や生活保護の利用者の報告を行っている。また、担当者との連絡を密にとり、不明点・疑問点があれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。身体拘束適正化委員会を結束、話し合いの場を設けている。	身体拘束廃止適正化委員会を設置し定期的に会議開催を行っている。また、研修会を開催し、身体拘束の内容と弊害の理解を深め、委員会が中心となり虐待の芽チェックリストにより、身体拘束の有無について検証し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成している。身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束・虐待防止を学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、伝達講習を行っている。全職員が理解出来る様、勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は丁寧に説明、本社と連携を図りながら対応している。法改正や変更があった際は迅速にご家族様に連絡・説明し、文書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日々コミュニケーションを取り、生活の中から聞き取り、思いをくみ取り思いを実現出来る様努めている。電話や短時間での面会時などにご家族様の意向を伺っている。	利用者の意見や要望は日常の関わりの中からくみ取り、家族からは面会時・電話連絡時・運営推進会議等の事業所行事参加時等に出してもらい、それらを事業所で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回個別面談を行っている。日々コミュニケーションを図り、職員の意見や提案を聞く様努めている。	管理者や主任は職員の意見や要望を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。個別面談は年に2回実施しているが、必要に応じて随時対応しており、家庭状況に応じて勤務形態を変更する等、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、それぞれの技能を生かせる様、職場環境を整える様努めている。家事や育児等両立した働き方が出来、働きやすい環境づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部研修の参加は出来なかった。内部研修を中心に、学ぶ機会を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響もあり、外部との交流が制限されている為機会がほとんど無かった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、不安を取り除き安心に繋がる様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用導入時より、良い生活が出来る様要望等取り入れ、話し合い、ご家族様の信頼が得られる様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を見極めサービスを導入し、必要に応じ他のサービス利用の検討に努めている。申し込みの際などに他の施設等の情報も提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は本人に時間をかけて行って頂いている。本人のペースに合わせて、関わり合える様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響もあり、面会制限がある中、本人の現在の状態や気になる事など相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、面会の制限、外出・外泊の機会が少なくなっている。	家族・知人・友人の訪問を受け入れ、利用者とはゆっくり懇談できるよう配慮しているが、現在コロナ禍のため玄関先で家族のみの面会としている。コロナ対策を実施し、利用者の不安を解消し関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状態・相性を考慮し模様替え、席替え等をその都度行っている。レクリエーションで入居者様同士が楽しめる様職員が関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣で御家族様にお会いした際は近況を伺い、必要に応じ相談や支援を行っている。サービス終了後、他施設に移られた際は問い合わせに対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努めている。入居者様のペースに合わせ、日々コミュニケーションを通し、思いや意向をくみ取りケアの検討をしている。	日常ケアの中で利用者の話に耳を傾け、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は家族からも情報を得て、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、必要な関係者様からの生活歴・サービス利用状況等の情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、ペース等を把握し、心身状態の変化に気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向・要望等取り入れ、生活課題・状況変化がないか必要な関係者と相談しながら検討している。	利用者・家族の意向や利用者の身体現状を把握し、介護計画を作成している。担当職員が介護計画の評価を実施し、定期的に介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変更があった場合にはその都度、検討し介護計画の変更をしている。しかし、把握した利用者・家族の意向が介護計画に反映されていない場合もみられた。	把握した利用者・家族の意向を介護計画に反映させることで利用者がその人らしく暮らしていける介護計画になるため、利用者・家族の意向を反映させて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中での変化をこまめに記入し、より良いケアを提供していく為に、ケアの実践の見直し等に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズに対応できる体制を整えられるよう努めている。訪問マッサージ等業者を取り入れ必要に応じ支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流や、市役所などの機関と連携を図れるよう努め、本人の暮らしを支えられるよう取り組んでいる。新型コロナウイルス感染予防の為外部との交流は出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の心身状態、ご家族様の状況・希望に応じかかりつけの受診をしている。訪問診療体制を構築、適切な医療を受けられる様支援している。	かかりつけ医への通院は家族同行としているが、事業所に対応する訪問診療も取り入れている。受診は、利用者・家族の希望に沿って支援し、受診結果は病院診断・服薬記録に記入し毎月のお便りにコピーを付けて報告している。必要に応じて電話での報告もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携の看護師に診て頂き、看護師に入居者様の状態・変化を報告話し合い、適切な治療を受けられるよう支援して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナウィルスの影響により面会できないが、病院担当者の方と電話で情報交換を行っている。主治医・相談員と情報を交換しかかりつけ医に報告、早期に退院出来る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族様に重度化した場合や終末期の希望について確認を行っている。また、重度化してきた場合にはその都度利用者の状態説明を行い、今後必要と思われる支援等を話し合うようにしている。医師とも相談し助言等を頂いている。全職員が把握、共通の認識で対応している。	入居時に利用者・家族に重度化した場合の支援の意向を確認し、事業所の重度化した場合における指針を説明し同意を得ている。支援方法について重度化した場合は担当医及び支援スタッフ・家族等で支援の方針を話し合い病院や特別老人ホーム等を希望する方には意向に沿った支援が受けられるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回程度本社の消防担当の方に来ていただき救急救命の訓練を行っている。全職員が訓練を実地、実践力を身につけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回訓練を行い、災害等に対するの知識を学んだり、年2回実際に利用者にも参加いただき実践に近い形での訓練を行っている。地域の地元消防団の方との連携も図っているが新型コロナウイルス感染予防の為、消防団の方々との訓練は出来なかった。	「エコ防災訓練年間スケジュール」を作成し防災訓練を行っている。本社の消防署OBの役員立会いの総合訓練は、消防訓練実施要項を作成し避難訓練と水消火器の訓練を実施した。年間スケジュールに沿って夜間想定や地震・水害等も実施した。備蓄は2日分在り不足した場合は法人から届くことになっている。水害訓練の記録は見当たらず、内容を確認できなかった。	最近の著しい気候の変動で、今まで経験しなかった災害が突発している。事業所は河川に近いことから、避難の目安や避難場所について共通理解を図り具体的な水害訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修・勉強会を通し尊厳ある介護理念を認識、実施している。入居者様一人一人の人格を尊重し、尊厳が失われない様な声掛けをしている。個人情報取り扱いについても周知徹底を図り、個人情報を書いてある書面は施錠し保管している。	年間研修計画に基づきYouTube視聴研修を利用したり、研修参加者が講師になり伝達研修を行う等して、利用者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーや尊厳が保てる支援に努めている。特に丁寧な言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の好きな事・得意とする事など、自己が活躍出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の気分、体調に合わせ意思を尊重し、1日を過ごせる様対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を活用している。服など出来るだけ本人の好みを取り入れ、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様の機能に応じた食事の形態にしている。入居者様の楽しみにしている行事食を多く取り入れてる。	食事は配食会社のチルド食で対応しているがみそ汁は入居者の希望等を取り入れ、手作りしている。利用者も食材の皮むきや食器拭き等を一緒にやりながら作っている。また、季節の行事食も一緒に作り、誕生会では入居者の希望を取り入れ食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録している。水分摂取が難しい方は好みの飲み物、ゼリーなどで摂取出来る様にしている。介助が必要な方は介助にて水分を摂取して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにより口腔ケアを行っている。出来ない部分は介助している。歯科衛生士とも連携し、通院が必要な方の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センサーを使用し、個々の排泄パターンを把握している。ベットとトイレの位置までの動線を短くし、転倒リスクの軽減を図っている。	生活チェック表やケース記録から把握した個々の排泄パターンや排泄サインを職員間で共有し支援している。特に夜間帯は必要に応じて巡視やセンサー等を使用し転倒リスクを軽減し快眠出来る支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し活用している。主治医の指示のもと排便が見られてない際は下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴管理表を活用、入浴習慣や好みを把握し楽しく入浴が出来る様支援している。体調・心身の状態に合わせ、清拭や足浴・シャワー浴などを行っている。	入居者の体調や希望等に応じて入浴支援をしており、浴槽に入れない方にはシャワー浴等で対応している。拒否する場合、声掛けを工夫したり、日時を換えて対応している。入浴が楽しめるよう入浴剤やゆず湯等を利用し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後休みたい方は休んでいただき、休めない方はゆっくり過ごしていただけるよう、本人の意思を尊重している。就寝時間も特に定めずそれぞれの生活リズムに沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の方と連携を図りながら、薬の注意点などの把握に努める。薬の変更があった際は他の職員が分かる様薬箱に明記するなど工夫している。症状の変化があった場合には医師と相談し薬の調整を行ってもらっている。服薬時は一人一人確実に服薬したか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、声掛けにて出来る事をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防に配慮した外出支援を行った。	感染予防をしながら法人のバスで、紫陽花寺・猪苗代湖・磐梯熱海の足湯・五色沼・土湯温泉の足湯等に人混みをさけて出かけている。季節感も感じられる気分転換の機会にもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得ながらお金を所持できる方には所持して頂いてる。自己管理により安心されている方も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや手紙のやり取りが出来るように支援している。必要に応じ代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、利用者が過ごしやすい空間作りを行っている。押し車や車椅子の動線を考え家具を配置したり、季節感のある飾りを飾り快適に過ごせる様支援している。	共用空間は広くて明るく、地域の方の絵画や花屋さんからの季節の花、職員と入居者共同で制作した作品が飾られている。空調管理機器も設置している。玄関には季節の花や長椅子が設置され、畑には季節の野菜や花が植えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はリビングと食堂に分け、各々が好きな場所で過ごせるようにしている。机やソファの位置など工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室内でテレビやラジオが聞けるようにしている。入居者様が使い慣れた馴染みの物を配置したり、写真や花、個人で作成した作品などを飾り落ち着いた得られる環境を整えている。	居室には、テレビ・家族の写真・ラジオ・化粧品・カレンダー・整理ダンス・シャコバサボテンの鉢植え・家族写真等、馴染みの物が持ち込まれ個々の生活が心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のADLに合わせ、症状に応じた介護用品を使用し、自立した生活が送れる様工夫している。		